

三原市歴史民俗資料館

三原のお宝 蔵出しニュース

— 第70号 —

縄文時代の調理器具？ ちょうりきぐ 穴の開いた土器

写真①

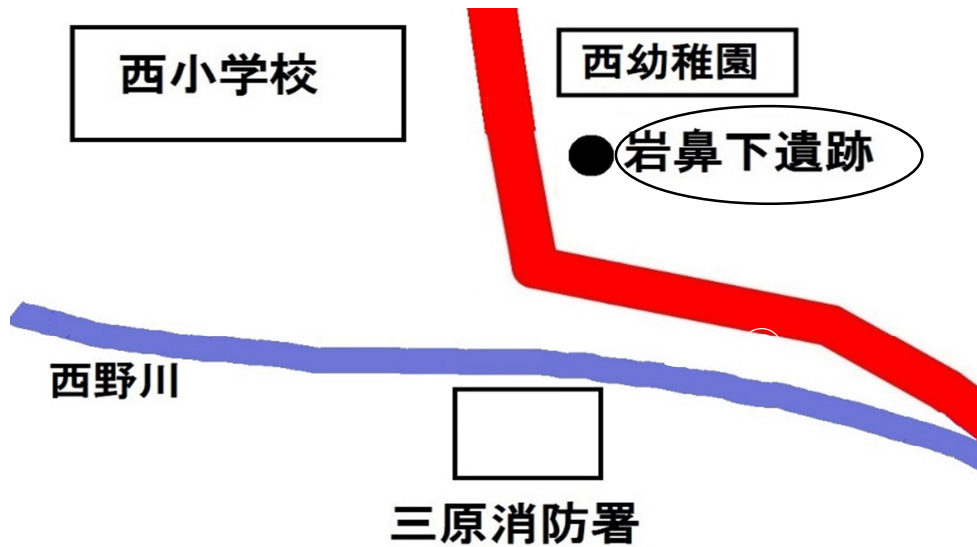


土器の穴は、先をとがらせた木の棒を刺して開けたと考えられます。

写真①は、にしみや いわばなしたいせき西宮の岩鼻下遺跡で発見された、縄文時代後期（約3千5百年～3千年前頃）の土器の底部分です。たくさんの穴が開いていることから「多孔底土器」と呼ばれています。同じような土器は、近くでは福山市や尾道市、そして東北地方から中四国地方にかけて、広い範囲で発見されています。使い方ははっきり分かっていませんが、ザルのように他の土器の上に置いて、食べ物を蒸したり、汁をこしたりしていたのではないかと考えられています。

この土器が発見された岩鼻下遺跡は、昭和 52（1977）年 6 月に始まった市立西小学校のプール工事の時に土器の破片が出てきたことで発見され、調査が行われました。遺跡からは縄文土器や弥生土器に加えて石器、イノシシの歯や骨、木炭などが見つかりました。このことから縄文時代から弥生時代（約 3 千 5 百年前～約 2 千年前）にかけて、この辺りで人々が生活していたことが明らかになりました。

現在、岩鼻下遺跡の場所は西小学校のプールになっており、遺跡を見ることはできません。しかし見つかった土器などから、当時の人々が石器でイノシシなどの動物を狩り、調理していた風景を想像することができます。



写真②
矢じり 3点



写真③
昭和 52（1977）年 遺跡の調査風景

市内遺跡の出土品は
みはらデジタルミュージアム（考古）でも
見られます！



<https://www.city.mihara.hiroshima.jp/site/digital-museum/>

<<編集後記>>

縄文時代は狩猟採集の生活をしていたとされています。
遺跡から出土した様々な資料を通じて、数千年前の様子を感じ
ることができます（み）

三原市歴史民俗資料館
三原市円一町 2-3-2
TEL0848-62-5595
令和 5 年 12 月発行

